



都道府県がん診療連携拠点病院
兵庫県立がんセンター

vol.
94
2025 09

兵庫県立がんセンターと地域の医療関係者をつなぐ

かけはし



特集

脳神経外科

「兵庫県立がんセンターでの脳腫瘍治療の取り組みのご紹介」

麻酔科

「麻酔科紹介 ～麻酔科医って、どんな仕事をしているの?～」

看護部の紹介

- 第15回 ひょうご県民がんフォーラム
- 第12回 放射線セミナー
- 新病院の建築工事が進む! 院内準備も本格的に始動!

題字: 病院長 富永 正寛

兵庫県立がんセンターでの 脳腫瘍治療の取り組みのご紹介

脳神経外科

はじめに

脳腫瘍は希少がんで脳原発性と転移性に分別されます。脳原発性腫瘍も良性と悪性があり、悪性腫瘍の中でも神経膠腫が最も多い腫瘍となります。悪性神経膠腫は、テモゾロミド（TMZ）の登場により、若干の生存期間の延長を得ていますが、それでも2年程度の生命予後とされています。治療の基本は術中ナビゲーションを利用して、ADLを低下させずに腫瘍を最大限に摘出することです。術中腫瘍からの出血を減らす目的で、術前血管内治療による腫瘍内塞栓術も行っています。さらに、腫瘍摘出腔には以前ギリアデルという抗がん剤のチップを留置していましたが、術後脳浮腫や感染などの合併症がやや多い傾向にて県内では、また神戸大学を除いて2施設目に導入した光線力学療法（PDT-BT）を追加しています。術後は、標準治療であるテモゾロミドとIMRTの放射線治療の併用導入療法を入院して連日治療しています。また脳浮腫が強い場合には、アバスチンという分子標的薬を併用しています。第4の標準治療であるNovo-TTF（電場療法；Optune）を令和5年2月から施設基準を届けて導入しています。Gliomaの

WHO分類が2021に改定され、遺伝子情報に基づいて診断がなされる方向になりました。当院ではがん遺伝子パネル検査を積極的に活用して診断だけでなく、横断的治療が可能な薬剤の有無を調べています。研究部の協力にてテモゾロミドの薬剤耐性がないかをMGMT遺伝子のメチル化の有無を調べることが可能になりました。治療方針に影響はしないが生命予後を予測できるため極めて有用です。以上のように神経膠腫の治療は、様々な選択肢があり専門病院での治療が必要な時代になってきています。近隣医療機関で疑われましたらご紹介いただきますようお願いいたします。

一方転移性脳腫瘍に関しては、抗がん剤の治療が奏効して元疾患が落ち着いているのに反して年々増加の傾向にあります。早期発見により定位放射線治療によるコントロールが可能となり、脳病変にも効果のある分子標的薬の登場により、治療成績は向上し、神経死の症例はかなり減少していますが、遅発性放射線壊死、放射線治療後再発や癌性髄膜炎などの問題が残されています。また、原発巣の治療成績向上に伴い、緩和目的を含めた手術適応症例も増加傾向にあります。今後も、原発巣の担当科、放射線治療科や腫瘍内科との密な連携を図り、標準的治療に囚われず、患者のニーズに沿った治療選択を心がけていきます。



治療実績

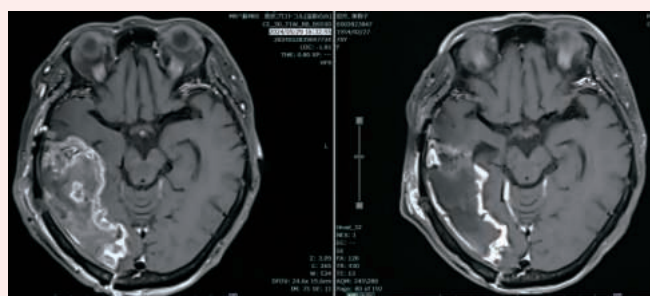
ここ2年で手術室が新しく整備されたため、年間手術数はそれまでに比して飛躍的に増えました。令和5年度は38例、令和6年度は47例でした。7割が脳腫瘍手術です。その他新しい治療法として悪性脳原発腫瘍に対する脳腫瘍治療電場療法（オプチューン）も6例に行いました。

年間手術総数

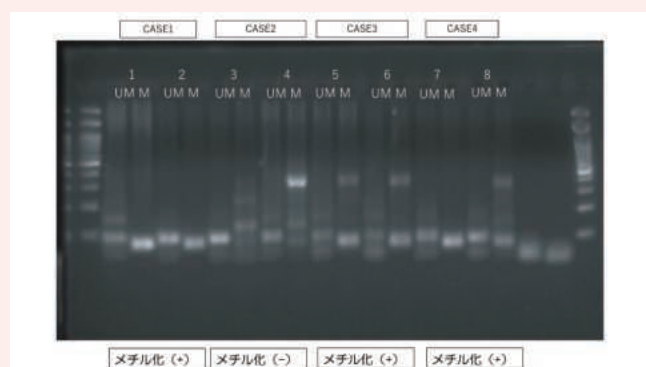
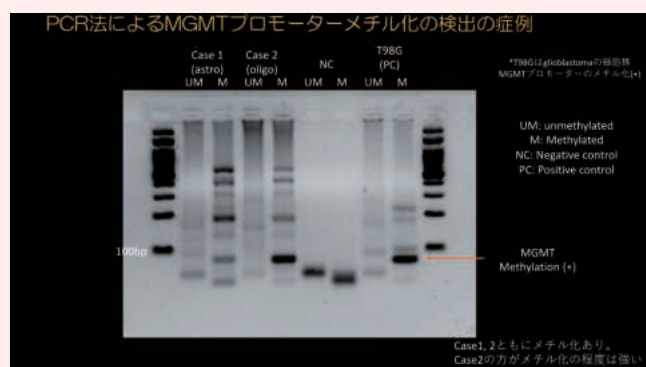
令和5年度 38件

令和6年度 47件

がんセンター手術室



PDT-BT半導体装置



MGMT遺伝子のメチル化の検出

麻酔科紹介

～麻酔科医って、どんな仕事をしているの？～

麻酔科

はじめに

麻酔科は、手術を受ける患者さんの全身管理を担う診療科です。麻酔科医の業務は、手術中の麻酔管理にとどまらず、手術前の診察・評価から始まり、手術後も患者さんの状態を良好に保つための継続的な観察・管理を行います。

麻酔科医の主な業務は手術麻酔ですが、それ以外にも集中治療、院内での急変対応、ペインクリニック（痛みの緩和を行う診療）など、その活動範囲は多岐にわたります。

麻酔科の主な業務内容

・手術中の麻酔管理

手術の種類や患者さんの状態に応じて最適な麻酔法を選択し、全身管理を行います。呼吸、循環、体温などを常にモニタリングし、状況に応じて適切な対応を行います。

・術前診察と麻酔計画

手術前に患者さんの全身状態を評価し、既往歴や合併症の有無を確認のうえ、麻酔方法やリスクについて説明し、安全な麻酔計画を立てます。

・術後管理

術後の痛みの緩和に努めるとともに、循環動態や呼吸状態を観察し、合併症の早期発見・対応を行います。

・集中治療

術後に重症化した患者さんだけでなく、院内で発生した重症患者の診療にも対応します。

・ペインクリニック

医療用麻薬や特殊な鎮痛薬の処方、神経ブロックなどを用いて、がん性疼痛や慢性疼痛といった難治性の痛みに対する治療を行います。

当科の紹介

麻酔科常勤医師は6名（麻酔科専門医2名、麻酔科認定医2名、専攻医2名）で、協力して診療にあたっています。手術室は9室あり、年間3,000件以上の悪性腫瘍手術に対する麻酔業務を担うほか、放射線治療室などでも麻酔業務を行っています。すべての手術室に、コンピュータで情報管理された全身麻酔モニターと麻酔器を配備しており、体温測定装置や筋弛緩モニターなども活用して、患者さんが安全かつ安楽に手術を受けられるよう努めています。

麻酔法としては、全身麻酔に加え、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、各種神経ブロックも積極的に取り入れており、術後の痛みを最小限に抑え、快適に過ごしていただけるよう配慮しています。神経ブロックや中心静脈カテーテルの挿入などの処置は、超音波装置を使用して安全かつ確実な実施に努めています。使用する全身麻酔薬には、吸入麻酔薬としてセボフルランおよびデスフルラン、静脈麻酔薬としてレミフェンタニル、プロポフォール、レミゾラムがあり、さらに筋弛緩薬やその拮抗薬も使用し、手術の種類および患者さんの体質や希望に応じて、最適な麻酔を行っています。

術前麻酔科外来は毎日実施しており、手術麻酔に関する説明や術前評価を麻酔科医が行っています。近年は手術を受けられる患者さんの高齢化が進み、それに伴い臓器機能の低下や糖尿病などの併存疾患を有する方が増えているため、術前麻酔科外来の役割はますます重要となっています。また、麻酔科では週に1回、除痛外来を開設しており、日本ペインクリニック学会認定医の麻酔科医が、がん性疼痛をはじめとする難治性の痛みに対応しています。

当院の集中治療室は8床を備えており、がん手術を受けた患者さんの半数以上が術後に集中治療室に入



室します。当院の集中治療室では、麻酔科医が中心となって術後の疼痛緩和や循環・呼吸管理を行い、患者さんが安全かつ安楽に術後を過ごせるよう努めています。集中治療室では術後患者だけでなく、院内で発生した重症患者の全身管理も担当しており、必要に応じて人工呼吸器管理や血液浄化療法（透析など）も実施しています。



看護部の紹介

「私たちは専門職としての誇りと責任を持ち、がんと共に生きる人を支える最良のがん看護の提供と発展に努めます」という看護部理念のもと、4つのK（感じる、考える、気づく、行動する）を大切にしながら、患者さんの気持ちに寄り添い、安全で質の高い看護を実践しています。



外来1

外来診療科では、病状や治療説明時に同席し患者さん・ご家族のご理解を確認しています。また診察前には看護師が面談を行い、患者さんの状態や思いを聞きとり、医師と他部門等チームで共有しています。そして患者さんが安心して治療が継続できるように、病棟と外来間の連携を行いチームで支援をしています。

外来2

外来化学療法センターは、在宅で過ごしながらかん・安全に化学療法を受けて頂くためにがん化学療法看護認定看護師を中心に投与管理、セルフケア支援を行っています。

内視鏡センターは、安心して治療・検査を受けていただけるよう、医師と協働し丁寧な支援を心がけています。

放射線部門は、医師・放射線技師・IVナースとの協働により最新のルタテラ療法にも取り組んでいます。

3階東病棟

呼吸器内科・泌尿器科・緩和ケア内科の混合病棟です。化学療法、放射線療法を受ける患者さんの意思決



看護部

定支援、副作用や合併症の予防的ケア、セルフケア能力を高めその人らしさを大切に支援しています。また、エビデンスに基づいた最新の治療を行うとともに、さらに新しい治療の開発のため多くの臨床試験や治験も行っています。患者さんの思いに寄り添いその人らしさを支える看護を大切にしています。

3階西病棟

頭頸部外科・口腔外科・腫瘍内科・婦人科の混合病棟です。頭頸部外科・口腔外科領域の術後は、摂食嚥下の機能回復に向けて、嚥下や食事摂取の訓練が必要で、大きな手術を受けた患者さんが次のステップに向かう気持ちは一進一退です。障がい受容を支援するために多職種の専門性を活用しながら、何が最善かを考えケアしています。



嚥下訓練場面

4階東病棟

早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法や前立腺がんに対するルタテラ療法など新しいがん治療への実施に向け、勉強会の開催やマニュアルの整備を行い、医師や多職種とも協働しながらかん・安全な看護が実践できるよう努めています。

4階西病棟

婦人科専門の病棟です。婦人科がん患者症例数全国TOP3にランキングされており、数多くの患者さんが入院加療されています。

疾患の特徴から若年の患者さんも多く、安心して治療とその後の生活を過ごせるよう、きめ細やかな看護を心がけています。専門性の探究に加え、笑顔と感謝を忘れず今後も励んでいきます。



令和7年度4月新規採用看護師（院長、看護部長と一緒に）

5階東病棟

消化器外科・内科、脳神経外科の混合病棟で、手術療法・放射線療法・化学療法から退院支援まで幅広く看護を行っています。術後疼痛や高齢化、疾患により転倒リスクが高くなるため、病棟では転倒を防ぐためにKYTカンファレンスを定期的に実施し、対策を話し合うことにより未然に防ぐよう努めています。

5階西病棟

呼吸器外科、整形外科、形成外科の3診療科による混合病棟として、多様な疾患や治療背景を持つ患者さんに対応しています。なかでも近年、AYA世代への看護に注力しています。これからも、患者さんの「今」と「これから」に寄り添える看護を目指して、日々取り組み続けてまいります。

6階東病棟

消化器がんを中心に化学療法・内視鏡・放射線治療に加え、ルタテラ治療などの専門的医療を支える看護を提供しています。がんセンターの強みを活かし、安心と質の高い看護を提供し、患者さん一人ひとりに寄り添う専門的な看護を実践しています。



検温場面

6階西病棟

血液内科と腫瘍内科の混合病棟であり、血液内科は、造血器悪性腫瘍に対して化学療法や造血幹細胞移植を行っています。腫瘍内科は、固形がんや原発不明がん・希少がんに対し、薬物療法、放射線治療や臨床試験を行っています。幅広い知識と専門性を持って、ひとりひとりの患者さんに合わせた細やかな看護を提供しています。

手術室

私たちは、患者さんを中心に術前から術後にかけて看護をつなぐことを大切に考えています。全例に術前訪問を実施し、得た情報をもとに病棟、麻酔科医、主治医と連携をとりながら看護を展開しています。そして患者さんの精神的サポートや術後訪問も積極的に行い、患者に寄り添った看護を提供しています。

集中治療室

手術直後の患者さんや重症患者さんの治療に対応しています。多職種と連携しながら痛みの緩和に努め早期からのリハビリテーションにも力を入れています。各診療科や病状に対する知識・技術の向上に日々取り組み、様々なシミュレーションを重ねながら院内急変にも対応しています。



患者指導場面



参加者募集

第15回 ひょうご県民がんフォーラム

- テーマ** みんなで話そう、これからのこと
～アドバンスケアプランニング(人生会議)のすすめ～
- 日時** 令和7年11月8日(土)
13:30～16:30(開場 13:00)
- 会場** 神戸市教育会館 6階 大ホール(Web参加可能)
兵庫県神戸市中央区中山手通4-10-5
- 対象** 一般の方・医療関係者
- 申込締切** 令和7年11月4日(火)
※お申し込み方法は下部の申込・問い合わせ先欄をご覧ください。
- 主催/共催** 兵庫県がん診療連携協議会 / 神戸市立医療センター中央市民病院
- 後援** 兵庫県医師会、兵庫県看護協会、
ひょうごがん患者連絡会、神戸新聞社

座長

神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科部長代行 西本 哲郎

PROGRAM

- 講演1** 人生会議で考えるこれからの生き方・医療との付き合い方
浜松医科大学地域家庭医療学講座 特任教授 井上 真智子
- 講演2** 「生きる!」を見つめる人生会議～浜松市での取り組みより～
まちの看護相談室り～ぶ(Live) 代表 番匠 千佳子
- 講演3** 紡げ、命のものがたり～神戸中央市民病院の取り組み～
神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科部長代行 立川 良
- 講演4** 人生会議が普通のことになるように～神戸市での取り組み～
神戸市健康局地域医療課 医療介護連携担当課長 米谷 久美子
- 座談会・質疑応答

第12回 放射線セミナー

- テーマ** 乳がんの診断と治療—update—
- 日時** 令和7年10月25日(土)
14:00～16:30(開場 13:30)
- 会場** 神戸市教育会館 6階 大ホール(Web参加可能)
兵庫県神戸市中央区中山手通4-10-5
- 対象** 一般の方・医療関係者
- 申込締切** 令和7年10月17日(金)
※お申し込み方法は下部の申込・問い合わせ先欄をご覧ください。
- 共催** 兵庫県がん診療連携協議会、兵庫県放射線医会、
兵庫県診療放射線技師会
- 後援** 兵庫県医師会、神戸市医師会、兵庫県看護協会、
神戸新聞社

PROGRAM

- 講演1** 乳房検査「乳がん検査について知ろう!」
甲南医療センター 中央放射線部 大嶋 とも華
- 講演2** 画像検査「乳がんのMRI～どんな検査?どう役立つの?～」
神鋼記念病院 放射線診断科 放射線センター長 門澤 秀一
- 講演3** 手術「乳癌の手術方法 --- 選択肢はたくさん、
あなたならどうする?」
兵庫県立がんセンター 乳腺外科部長 金 昇晋
- 講演4** 薬物療法「乳癌薬物療法最新情報」
関西医科大学 乳腺外科学講座 准教授 木川 雄一郎
- 講演5** 放射線治療「乳がん治療における放射線療法の役割」
兵庫県立はりま姫路総合医療センター 放射線治療科 診療科長 余田 栄作

申込・
問い合わせ先

申込方法:専用フォームから事前登録をお願いします。右の二次元コードからおすすみいただけます。
※会場参加の方は、お電話でもお申込み可能です。
兵庫県がん診療連携協議会事務局(兵庫県立がんセンター総務課内) TEL:078-929-1151(代)
E-mail:jimukyoku@hyogo-ganshinryo.jp URL:https://hyogo-ganshinryo.jp/



INFORMATION

新病院の建築工事が進む! 院内準備も本格的に始動!

本年5月に実施した起工式以降、順次建築工事が進められています。
現在は、地下免震の工事を行っており、建物の姿が見えてくるのはもう少し先(来年度)の予定ですが、進捗は順調です。計画では令和9年10月末に竣工し、その後の開院準備を経て、令和9年度末頃の開院を目指しています。

院内ではこれまで様々な検討を重ねてきましたが、新病院の建物の構造や区画、さらには新たな医療機器や情報システムの選定等を踏まえ、それらをどう活かしていくか、具体的な運用の検討が始まりました。

病院スタッフは日々の診療業務の合間を縫いながら、院内準備を着実に進めています。この先も将来にわたって地域のがん医療の一翼を担えるよう、スタッフ一同が力を合わせて取り組んでまいります。みなさまからの温かいエールをお待ちしています。



工事スタッフと病院スタッフが各部門別に建築図面の確認を行っています



現在の建築工事現場の様子
(令和7年7月下旬撮影)



都道府県がん診療連携拠点病院

兵庫県立がんセンター

〒673-8558 兵庫県明石市北王子町 13-70

電話: 078-929-1151 FAX: 078-929-2380

ホームページ <https://hyogo-cc.jp/>

兵庫県がん

検索

